

異文化経営論

担当教員： 榎田 智子

履修年次・区分： 3・4年（専門－展開－経済・経営）

授業のテーマ： 企業のグローバル化に伴う異文化相互理解の重要性について学んでいく。企業が一国内のみならず海外で経営活動を行うためには、制度、文化、政治および法的・経済的慣行といった環境要因の相違を認識せねばならない。講義ではグローバル経営に関するこうした課題について、戦略、マーケティング、人事および組織などの観点から事例分析をもとに考察していく。

この日の授業内容： 組織文化とは何か



組織のメンバーによって共有される行動パターンや集団規範、支配的な価値観を「組織文化」と言います。これを健全な形で維持または変革していくことが管理者の役割です。この日は「異文化」経営を考える基礎として、まず「組織文化」とは何であるかを、ある企業が原因となった集団食中毒事件をもとに考えます。ビジネスの現場において、仮に同じ問題に直面したとしても、取り組み方や解決方法は組織によって異なります。これは組織文化の影響です。事例を通してこのことを理解したのち、「企業文化」と「国の文化」の比較に関する研究にふれ、組織文化の影響力の強さについて学びました。

国の文化＝国民性によって思考や行動が異なるというのは、一般的に考えられている通りです。現在では、組織行動に与える企業の本拠国の文化の影響は計り知れないというのがメジャーな議論ですが、一方で、国の違いを超えて共通する企業文化の影響は、国の文化の影響よりも大きいことを示す研究成果もあります。だからこそ、グローバル時代における組織文化の管理は経営者にとって重要な課題であることを学びました。

(2018年1月取材)